

自分づくりをもって若者が“心の闇の原型”を 乗り越えることの意義 —シュプラランガーの了解に則り、ある女子の場合をとりあげて探求—

宮野祥雄

キーワード：“心の闇の原型”の乗り越え，“自分づくり”の意義，シュプラランガーの了解

問 題

若者の「心の闇の原型」についての研究をすすめてきた。苦境・逆境を乗り越える過程や意義などの「レジリエンス」研究は行われてきているが、「自分づくり」をもって若者が心の闇の原型を乗り越えることの意義に焦点を絞り、シュプラランガーの了解に則って行った研究は皆無である。前述した焦点，了解のもとに，ある女子をとりあげ，自分づくりをもって心の闇の原型を乗り越えることの意義の探求にあたる。

方 法

シュプラランガーの了解に則り，発達，社会の影響，心の内面を，「問題」の項において述べてきた探求の視点に据えた。若者の事例としてある女子の場合をとりあげて，本女子が自らの中学校期・高校期などを振り返り，記述した本了解の根幹にあたる事柄と，本女子の成長過程についての私の知見をもとに，「問題」の項において述べてきた課題の探求にあたる。本女子は平成元年生まれである。令和元年10月20日に本研究に着手した。

本論文の草稿段階から本女子に目を通してもらい，本総会発表について本女子及びその家族の承認を得た。

了解的探求

「問題」や「方法」の項で述べてきた事柄にもとづいて本女子の中学校期における学業成績・友人関係・部活，志望した大学の不合格，恋愛の破局を取りあげ，本女子の，心の闇の原型を乗り越える過程の追求にあたった。**中学校期における心の闇の原型**

本女子の記述「…私は，常に成績が良くなくてはいけない…という意識が強く，成績が悪くなるとすぐ自分に嫌気がさした。」からは，成績をめぐる本女子の心の闇の原型が推察される。他にも本女子の記述には，「中学に入り，みんな所謂「いいこ」だった小学校から…変化した。…ここに染まってしまっただけ…勉強を頑張るように心がけた。」や「…部で…。昨日まで仲良かった子に，翌日無視…仲間はずれに…。…順番にターゲットを決め巡っていく…。…練習もとてもハード…辞めることを決意。」，「…自分の家族のことでからかわれて嫌だった…」などがあり，本女子は中学に入り，小学校期には親しかった友達や入部した部活を消極的・否定的に受け止め，友達から離れ，退部している。これらの事柄からも，本女子の心の闇の原型が推察される。

以上において述べてきた本女子の記述に，この女子の記述「…部活を辞めると同時に，付き合う友達が変わった。勉強ができ，…良いメンバーと付き合うようになる…。…勉強への意識も高まり，頑張ることが恥ずかしいことではない！」を加え，これらの事柄から，本女子が心の闇の原型を抱えつつ，正面から学業に取り組む友達を尊び，このメンバーに接近し，勉強を頑張ろうとしてきた，ということを読み取った。また，本女子の記述「…ここに染まってしまっただけ…勉強を頑張

るように心がけた。…英語の本を読むようになった。…他の文化に興味をもつきっかけ…は美術の授業だ。…NHKの美術番組を見ながら…の授業は私の興味を引いた。自分が知らない国の人…違う時代，違う土地で…彼ら…にはどのように世界が見え，どんな…作品を残してきたのか…。この興味心は今に至るまで，私の核となっている…」から，当時の心の闇の原型を抱える本女子が英語の勉強や美術の授業で持つようになった海外文化への興味・関心の，後の本女子による国際学部進学，大学院（文化交流学研究科）留学への繋がりを読み取った。

本女子の記述に「…部活のメンバーを見返してやるくらいの気持ちで…部のメンバーを抜きマラソンでは全校で3位になった。…」とある如く，前述してきた，中学校期における心の闇の原型を乗り越えようとする本女子の気概・意気が奏効してか，本女子はマラソン大会の女子の部で3位に，2年次に1位になり，進学校への推薦入学をも果し，高校1年次の英語の学力テストで1位になった。高校期についての本女子の記述には，「…ダンス部…体育祭の応援団にも参加した。…青春をおおいに楽しむことができたし，頑張ることの素敵さを改めて感じた高校生活だった。」，「…私の人格はポジティブ，好奇心旺盛，努力家へと形成されていった。」とある。以上の事柄から，本女子が自分づくりをもって中学校期の心の闇の原型を乗り越えるに至ったということと，この乗り越えの意義を理解，把握した。

志望大学の不合格，恋愛の破局における心の闇の原型

本女子は志望学部に入学できたが，志望する大学には不合格となった。この時の心境を，「…志望大学には落ちたけど…絶対にそれで良かったって思えるほどの経験をしてやる…」と記述。本心境から，中学校期における心の闇の原型を乗り越えてきた体験の生きる意気と，志望大学不合格における心の闇の原型を読み取った。

本女子は，自立を目指し，アルバイトをしつつ，入学した大学での学業に取り組み，学位式の学部代表に選出された。来日している青年から留学情報を得て留学への気持ち固まり，本女子は，この青年に恋をした。大学を卒業，某国に渡り，某語学校就学を続けているときに，前述してきた恋愛が破局を迎えた。が，本女子は，アルバイトをしつつ，某語学校就学を続け，大学院に入学，本大学院を修了，某国の出版社に就職し，現在に至る。

本女子の志望大学の不合格と恋愛破局における心の闇の原型の乗り越えに言及する。前者については本女子の大学以降の学業の成果と自立的学業生活をもって，後者については恋愛の破局以降の学業生活，学業の成果及び自立をもって，本女子の自分づくりによる心の闇の原型の乗り越えと，この乗り越えの意義を理解，把握した。

以上の事柄からは，自分づくりをもって重ねてきた，心の闇の原型の乗り越えが本女子の人格に統合され，現在も生きている，と言えよう。